

「みがき合い、支え合い、心豊かでたくましく生きる生徒」 ＜9月の振り返り＞

9月は、「体育祭」「授業」「挨拶」の三つの改善に取り組んでいる。

◎「体育祭」…「質問」「待つ」「承認」が主体性を生み出す秘訣！指示や指図だけで主体性は育たない！

＜成果＞

- ・行事のねらいに迫ることができた。

体育祭のねらいには迫ることができた。特に3年生の頑張りを引き出せたのは、職員の連携した動きによるものと考えられる。臨機応変の対応や生徒の側に立った対応が功を奏していると考えられる。

- ・できるだけ生徒に任せる意識が出てきた。

リーダー指導の基本は、「一緒に考え、任せて、評価する」ことである。放っておいても育たない、なぜか、ねらいがわからなかったり、目標がぶれたりするからである。何のために、なぜそうするのかを考えさせるのが大切である。

- ・参観者からのいい評価が沢山聞けた。

一人一人が主役であり、その姿を来賓、保護者、地域の皆さんに観ていただき、笑顔や元気を提供するということが、参観者からの評価に表れていた。応援団を中心に生徒の一生懸命を引き出せたからである。係生徒の動きも頑張っていた。

＜課題＞

- ・学年練習や全校での練習で教師が前に立って、マイクを持って指示する姿を少なくしたい。

先生の指示が多いと何も考えずに指示に従う「従順な生徒」が育つ。質問で動かせば考えて動く「素直な生徒」が育つ。まだ生徒同士の指示の方が、疑問や不満を声にできる。

- ・何ができたらOKなのかがわかる行動目標をもっと意識させたい。

練習のねらいが生徒と共有できていないので自己評価や承認ができない。教師の指示が多く、評価が少ない。何が良くて、明日の改善点は何かを明確にすることが指導である。指導→実践→評価→改善→実践→評価の流れが、変化を創り出す。

- ・失敗できるプロセスを大切にしたい。

計画と実際の動きはずれる。ずれた時に生徒が考え、動こうとする姿を生み出すのが大切である。生徒にとっての「いい発表」をつくるためには、失敗できるプロセスが重要である。これは昔から言われてきたことである。

- ・校内放送による変更連絡を少なくしたい。

校内の一斉放送は、緊急時の指令や命令で使用するのが原則であることを忘れてはならない。

体育祭の練習日程の変更は、予め設定している伝達システムを活用しなければならない。何のための実行委員会組織かわからなくなる。生徒が自主的に活動するための組織であることを意識したい。

◎「授業」…「ルール」と「対話」を意識した授業づくりを！

- ・「授業ルール」を意識するための可視化を！

「彼方」に教師の「授業スキル」を記載した。これは、教師が身に付けなければならない「授業スキル」という制服である。先生方一人一人の個性、「らしさ」は、その上につくられてくる。ルールを無視して自分の授業をつくることを个性的とは言わない。先ずやるべきは、ひとつひとつが意識されるように可視化し、できているかの「振り返り」や「評価」が必要なのである。

「みがき合い、支え合い、心豊かでたくましく生きる生徒」 ＜9月の振り返り＞

- ・「教えて！」→「いいよ。」「大丈夫？」→「これでいい？」の関係をつくりたい。

自分からの発信は、生徒がやらねばならない大切な「授業ルール」のひとつである。でも、それができる「場の設定」や「雰囲気づくり」は当然ながら教師の仕事である。教師の一方的な指導だけ、評価だけでは生徒が対話的に学ぶことはできない。

- ・先生方の授業アンケートの結果による課題を改善したい。

別紙資料（9月の振り返り【職員アンケート】）を参照。少し厳しめの自己評価が多い。生徒の授業評価とのギャップを意識していきたい。教師は高いのに生徒評価は低い、逆に教師は低いのに生徒は高いという点については、今後検討し、改善していきたい。改善は個人的に進める場合もあるが、組織としてシステムを入れていきたい。学習委員会の活動をつくったり、校内研の授業研の密ポイントに組み込んだりすることがその例である。

＜意識の高い項目（85%以上）＞

- 授業のめあてや課題をわかりやすく提示した。85%
- 生徒が発表しやすい雰囲気づくりに努めた。87%
- 生徒にわかりやすい指示や説明を心がけた。90%
- 生徒の考えや意見をよく聴くようにした。95%
- 教室を整理整頓させ、学習環境を整えさせた。92%
- 授業の開始、終了を守った。95%

＜改善が必要な項目＞

- わかったことを生徒のことばでまとめる。50%（→「あてはまる」が3%）
- 授業ルールを提示し、評価しながら定着を図った。60%
- 授業中に友達から質問された時は、相手がわかるまで説明するよう促した。45%
- 生徒のやる気が引き出せた授業が多かった。79%（→「あてはまる」が3%）

◎「明るく元気な挨拶」…「(あ) 明るく・(い) いつも・(さ) 先に・(つ) つながる」を！

- ・教師側からの挨拶を意識し、実践したい。

外部から「挨拶」について評価が返ってくるようになった。「挨拶」が校内外で意識されてきていると考える。学校が、挨拶できる学校かそうでないかは、教師の挨拶にかかっている。生徒がよく挨拶する学校は、例外なく教師が来客だけでなく、生徒と何度も挨拶を交わしている。その効果は絶大である。教師側から生徒に声をかけて無視する生徒はほとんどいないからである。それでも挨拶できない生徒がいれば声をかけて「つながる」ことが大切になる。

- ・挨拶は自己表現である。自己表現できる学校にしたい。

元気な雰囲気や明るさはどうすればできるだろうか。やり方や方法はいくらでもある。朝の打ち合わせで行っている「Good&New」もそのひとつである。要は、子供のモデルとなる大人が「仲が良い」というのが必要不可欠である。お互いに配慮し合い、気遣い、助け合う中で、言うべきことややるべきことは上手に伝え合える関係を構築しなければならない。一人で抱え込まず相談し合える環境を職員室の中につくり、学校の中に広げていきたい。生徒に人間関係を云々できる環境を大人が作らずして学校改善はない。